

新年明けましてお芽目度う御座います。旧年中は種々お世話になりました。本年も相変わらずの御厚情をよろしくお願ひ申し上げます。

昨年は当協会にとって大きな変化のあった年でした。前年の十二月まで毎月二回ずつ開催して居りました上野本牧亭での定期公演が席が閉鎖することになり、大いに慌てました。が幸い国立演芸場を毎月使用出来ることになりました。こゝは客席が本牧亭より多いのですが、お陰様で順調に進んでいます。これは兎一つには会場が明るく、雰囲気などが若い人達や新しい層をひきつけていることや、また学者や評論家による斬新な企画によるブログラム、それにマスコミへのPRがきいたこと

などが挙げられると思います。しかしとも角この新しい会場が会員の皆様に新鮮な大きい刺激を与えたということは確かなことでしょう。

しかし良いことばかりではありません。今協会で一番頭が痛いのは世代の交替期にあって後継者が少ないことです。特に若い人で専門家になろうという人が余り無いということは将来の為に淋しいことであり、また義太夫界にとって重大な問題です。特に三味線が少ないことは毎月の公演にも響いてくることになるので、役員一同の悩みの種です。勿論現在若手の中には将来を嘱望されている優秀な人もあるのですが、それとも加重がかかる、十分に勉強の時間がないこともあります。

新年の辞

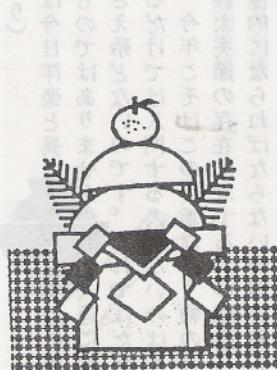
義太夫協会会長 田辺秀雄



義太夫協会会報

第49号

平成3年1月1日
社団法人 義太夫協会発行
〒104 東京都中央区銀座
6-18-2 新橋演舞場B2
TEL (3541)5471



勿論協会の役員もこの問題には頭を悩ましています。今まで協会の事業の最も大きいものは普及にあって、義太夫教室、教師の為の講習会、一日教室、学校巡演その他はそれに拍車をかけるには、種々な催しに積極的な参加、時代に即した新曲の創作、太棹三味線の魅力を示した器楽曲の委嘱、さては専門家の目指す人の為の奨学金まで考えられます。昨年から芸術文化の振興をはかる為に民間からの寄付を集め、日本芸術文化振興会が発足しました。この際日本の貴重な伝統文化を不滅なものとする為に、今まで極めて狭い範囲で行われてきた研修制度を、こうした苦境にある芸能にまで拡大する必要があると思っています。

三曲や長唄の方面ではまだ若い人達の支持者が幾分あります。曾つてそれらと並んだ愛好者を有していた素の義太夫界にそうした時代が来ないとは決して言えないとは私は信じています。

（前頁より）

謹賀新年

新年明けましておめでとうございます。
義太夫協会は、本年も義太夫節の普及・発
展に努めます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

重要無形文化財総合指定「義太夫節保存会」は、満十年を経過したところで
すが、このほど新役員が決定いたしました。略儀ながら紙面にて御挨拶申し上
げる次第でございます。今後とも、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

邦楽は今日洋楽と異なりふだん身近に触れているものではありません。若い人達には聞かず機会さえ殆どないのです。これではただ待っているだけでは入門する人がないのは当たり前です。今年こそはこの貴重な語り物の音楽である義太夫節の存在に対する広い認識と普及に積極的にならねばならない時期であると思います。協会が一団となって発展の方向をとって行こうではありませんか。私も微力を尽くす所存であることを述べ、新年の辞とします。

重要無形文化財総合指定

顧問	技芸員代表	監事	事長	副会長	理事
問	表	事	"	事	"
吉田	竹辺川	豊澤	野澤	竹澤	竹澤
英秀	本土佐廣	猿三郎	駒吉	本太郎	本染
史雄	郎	平久	登八	登	道輝



野豊鶴竹竹竹竹竹竹竹竹竹田
澤澤澤澤澤澤本本本本本本本本本邊
錦吉瑩幸重寛素素駒越越綾綾弥越綾駒朝秀
輝平綠治輝八丸八龍若孝夫一夫道助助重雄

理 常務理事 會 副會長
事 // " // 長

監事	相談役	名譽会長	参与	鶴竹	本澤	春染	英登	山景
佐々木	豊澤	吉川	与	鶴竹	本澤	春染	英登	正明
佐々木	猿三郎	英史		本澤	春染	英登	廣華	隆郎
佐々木	猿三郎	英史		本澤	春染	英登	廣華	正明
佐々木	猿三郎	英史		本澤	春染	英登	廣華	正明

安永寿さんのお嘶

相談役 豊澤猿三郎

おめでとうございます。少しばかりおめでた
い新を書きましょう。

七十年前、浅草寿町に安永作太郎さんと
、娘の嫁を殴り両舌の旦那が居られました。

その披露を根津の歌音本（立派な貸席）でお

寸の折り詰めに、お酒の四合瓶と、う大盤振舞です。先づ五段程終つて、大喜利の「太十」

手伝いして、安永さんは十次郎です。お客様の口から行儀の悪い、へば居て、『六十』の寺

奥さんや御近所の奥さん達の居られるそばで

われるよ。お酒もう一本くれたら、ほめてあげるよー失礼な人です。一諸に居たつれの男

「 」
（注）町名を二つで安く尋ね仰言つて居ま
ニ」という朝鮮人だよ」

同じ間隔で書いてあるが、この二つは、
と読んだのでしょうか。「悪かゝと悪かゝと、

其の後の安永さんは、息子さんと嫁さんと淋しく暮して居ましたが、どうも胃カタルや義太夫カタルという病気は快りにくいと見え、同区内に住む富之助さん（註・芸が大きく美人で利口の為、人気のあった竹本富栄の師匠）の所へ行つて語つて居られました。それを、世話好きの伊藤松鶴さんが見て、お二

其の夜、奥様が安永さんに申しました。「今夜限り義太夫をおやめ下さい」安永さんも多少虫の居所が悪かっただけ、「止めません」「それでは、私はおひまを戴きます」「自由にしないで」と翌日奥さんは、三十年住みなれた安永家から実家へ戻りました。

朝鮮人とは知らなかつた。うまいようまいよお酒はうまい」十次郎が行方知らずで入りました。「十次郎さん帰るのかい、玄界灘は浪が高いよ、気をつけろんだよ」暫くはやゝ静かでしたが、十次郎が引返して来ました。
「早いね、もう帰つて來たのかい。唐がらしが利いたか顔が赤いね、妓生イジウにもたたかい……」無作法にもワイセツな言葉が出たのでどうとうたまりかねて他のお客二三人で引きずり出しました。傭ぎ手らも終演しました。

御寄付(平成2年4月~12月)

豊澤
猿三郎様

祖先祭にて

大日本素義会様

松井一男様

山岡知博様
所長

竹本弥乃太夫様

(故) 松橋正文様

A black ink illustration of a traditional Chinese vessel (zun) and a long, narrow calligraphic scroll.

人を説いて正式に結婚させ、安永さんも店を
息子さんに任せて、ご自分は富之助さんと一
直でご披露なさって、浅草馬道に新居を構え、
末長くお暮しに成りました。おめでたいお嘶
ではございませんか。私も数え年九十三才に
なりました。

芸の伝承

名誉会長 吉川英史

義太夫節の伝承という問題を広げて、邦楽全体或いは、芸一般にも広げて考えてみたい。

胎教

伝承の基本には教育がある。しかし、教育は必ずしも学校や稽古所での教育には限らない。教師や師匠のない教育もある。胎教もその一つである。母親の胎内にいる時からすでに教育が始まるという。

胎教は、近年心理学者などによって研究され、胎教のためのレコードも市販されている。残念なことに、目下のところ胎教に使われる音楽は、洋楽、それもバロック音楽に限られ、邦楽曲は採用されていない。

ところが、驚いたことに日本にはすでに三百年前、胎教を説いた筆の本が出版されている。元禄十四年(「忠臣蔵」事件の始まつた年に刊行された「琴の指南抄」)がそれで、原文は次の通り(筆者)

「女人はくわいたいの時など一しほくすりとなる也。胎内の子も、かやうの調子律のある音を聞いては、その子も心にがんじ、生れてもちやうしよきのみならず、耳とく、ちゑかしこく、きく事によくうつる」とや。」
(カッコ内の文字と句読点は筆者)

良い胎教を受けた胎児は、生まれた後に聴覚が鋭敏なばかりでなく、賢明で、聞いた事

により感化されるという。胎教の効果をここまで明言しているのに驚く。

門前の小僧

「門前の小僧習わぬ經を読む」という諺がある。寺の門前に住んでいる子どもは、朝夕お経を聞いているので、別段習わなくて(教えなくて)も自然にお経を覚えるようになるというのである。これは、拡大して解釈すれば、人は良いことも悪いことも、環境の影響を受け易いということである。

音楽の実例でいえば、筆者の恩師田辺尚雄先生は少年時代に、義理の姉さんが習う筆を毎日のように聞かされているうちに、筆の手を覚え、逆に忘れた姉さんに教えられたそうである。音だけ覚えることが音楽のすべてではなく、发声法や演奏技巧の問題などあるにしても、音楽的に有利な環境に住むことは、望ましいことである。

文楽の白湯くみ

文楽の太夫の修業には、師匠との対面稽古のほかに、「白湯くみ」というものがある。公演の時に、太夫のために白湯を入れた湯飲み茶碗を運ぶ役を勤める一方、師匠格の太夫の語る床(演奏の座)の下に座して、太夫の語りを傾聴する修業法である。

無論、師匠と差し向かいでの稽古が本格的

な稽古であるに違いない。何よりも、間違いや悪い所を直して貰えるからである。しかし、その場合の師匠の芸(手本になる演奏)は、本番の芸は、全力投球の最高の芸なのである。その最高の芸を、最高の集中力で聴き取ることによって、差し向かいの稽古では得られない高い芸を取得できるわけである。

この「白湯くみ」と「門前の小僧」とは、教えて貰わないという点では共通点があるが、「門前の小僧」のほうは自ら進んで学び取ろうとする積極性がないのに対し、「白湯くみ」のほうは、進んで学び取ろうとする積極性がある。そこに大きな違いがある。

ひとの稽古を聴く

自分が稽古をするばかりが稽古ではなく、ひとが稽古をしているのを聴くのも一種の稽古である。ところが、「今のお弟子さんたちは、自分のおかげがすんだら、さっさと帰る」といつ嘆く師匠が多い。世の中が忙しくなったからか、住宅事情が悪くて、師匠の稽古場に長居していることを遠慮するようになつたからか。いずれにせよ、もつたいない芸はどん欲でなくてはならない。

文楽の三味線弾き鶴沢重造さんは、若い修業時代のころ、友達と交替で、ひとの稽古を隣りの部屋で聴いてメモを書き付たとの話であった。また、清元の人間国宝清元志寿太夫さんは、名人清元延寿太夫の内弟子になつ

たが、一度も延寿太夫から教えて貰ったことはないと聞いて、私は驚いた。延寿太夫の夫は人から二、三曲教わっただけだそうである。

では、志寿太夫さんはどうして芸を身に付けたかというと、これまた、ひとの稽古を隣室で聴いて、メモをするやり方である。つまり、受け身の稽古ではなく、何とかして物にしようと/or>する努力、積極的精神が、なまじつか丁寧親切に教えて貰うより、力強い稽古にするのである。

学校教育との関係

一胎児として良い教育を受け、生まれてから、は門前の小僧的環境に恵まれ、数え年の六月六日からという邦楽入門の伝統的慣習通りに邦楽の稽古を始めたとしても、間もなく行く手に立ちはだかる障壁が待ち構えていた。明治以来の洋楽一辺倒の学校の音楽教育である。

羨ましく思つた

いう二重教育も可能であったが、塾通いが村にない現代では、稽古通いは極めて困難になってしまった。これでは、歴代の総理がいう「伝統尊重」は空念仏に過ぎなくなつた。こうして、今や邦楽の伝統に取つて最悪の環境が出現しているのである。門前の小僧は、演歌からロックしか歌えないであろう。自然環境の危機にあって機が叫ばれるが、伝統文化の環境も危機にある!!

中国の蘇州に国立の蘇州評弾学校といふ伝統音楽の学校がある。やはり、この中で音楽と一般学科の両方が学べるが、年齢は高校生に相当。全生徒が寮生活で、月謝も寮費も要らないというから羨ましい。中国全土から志願者が殺到し、千人の受験者から約十人が合格するという狭き門である。今は蘇州の郊外にあるが、間もなく市街地に新築移転するという。日本の学校とは反対である。（なお評弾とは、評話と弾詞の合成語で、評話とは日本での講談に当たるが、身振り手振りの多い話芸であり、弾詞とは歌詞を伴う楽器演奏で、

特殊専門学校の創設を

伝統音楽を高い水準で保存し、継承するには、韓国や中国で行われているような特殊專門の団体が望ましい。日本においては、

人間国宝（重要無形文化財保持者）を認定したり、重要無形文化財の団体指定をするなど传统芸能の保護政策に努力している。これでは文化庁の政策と文部省の政策は矛盾していくことになり、政府の現在の政策は、根無し草式で、いずれ枯れ死にを待つやり方といわれても仕方があるまい。

重要無形文化財の指定

重要文化財の指定は、日本が最初で、韓国や中国も日本に倣つた。日本では無形文化財よりも有形文化財を尊重する風習があり、芸術院などにもその傾向があるが、文化財の指定も、まず有形文化財に始まり、無形文化財は遅れた。

初めは予算が付けなかつたので、単に名前で済んでいた。しかし、本多は「人間国宝」という名前を作つたので、一層名譽職的色彩が濃く思えた。しかし、本来は、芸を後繼者に伝達して欲しいという國家的願いが、抱き合せになつてゐるわけである。最高の水準の芸の伝承である。

この伝承の義務が表面に浮かんだのは、人間国宝に年金が支給されるようになつてからである。ところで、伝承したことを公認してもらうためには、伝承者の公演が必要であろう。この事は今のところ厳格に行われていいなういようである。義太夫協会における義太夫節保存会のメンバーに対する竹本土佐廣の指導などが好例であろうと思う。

伝統芸能の危機に当たり、伝承の努力は今や国家的重大事である。

琵琶・三絃が代表楽器、主として語り物音楽

日本でも、教育制度を変えて、リトルエンゼルスや蘇州評彈学校の制度による特殊専門学校を作らねば、将来、音楽オリンピックが開催された場合は現在の陸上や水上の競技のように、みじめな結果になりはせぬかと、心配である。

八王子車人形劇

養成所創立を目指して

四代目家元 西川古柳

経済的に世の中が安定してきたといわれる現在、多くの人達が伝統芸能を見直す気運が高まり、とても喜ばしいことです。が、先頃座員の一人が海外青年協力隊に入るため退座するなど、八王子車人形も後継者の問題では先行きが心配です。

八王子車人形は幕末・明治・大正・昭和の永きにわたり大衆の芸能として皆様に親しまれてきましたが、平成の新しい時代に入り、今一番重要なことは、伝承と後継者養成の事業です。現在座員が心一つにして車人形に取り組んでいますが、養成者の問題を解決するには、個人の力にはどうしても限界があるて悩んでいる現今です。

四国の淡路人形座は、行政と市民の協力で立ち直り、養成を受けた座員が立派に舞台で演じています。人形淨瑠璃では、代表的な文楽座は国と大阪市の助成で文楽協会としてやっています。

八王子車人形を後世に伝承していくには、経済的な基盤の確立と人材の確保をしていかなければ二十一世紀に向かい先行きが心配です。人形が博物館行きにならぬように、いつまでも舞台で演じられる車人形としてゆくに

は、座員の養成に積極的に取組み発展する場所を作り、国際的な人形劇センターにという夢を暖めていますが、私も車人形の家元として大きな責任と使命を痛感します。

しかし現実は、長男・柳時、次男・柳玉も、座員も、生活のためのアルバイトが欠かせない状態です。行政機関も活字の上だけでなく、実態を調査審議して、ころばぬ先の杖となつ

ていただきたい。世界に誇れる芸術と伝統の上に新しい歴史を加味できますように、皆様の御理解と援助を心からお願いする次第です。

* 2月20日、女流義太夫公演にゲスト出演

「伊達娘恋紺鹿子 火の見櫓の段」

「乙女文楽」の継承を志して

人形劇団ひとみ座 伴通子

さんが、神奈川県茅ヶ崎市に現在もご健在で活動しておられる。

昭和の初期、「乙女文楽」「娘文楽」「女文楽」と相次いで女性の一人使いの文楽が考案された。その中で、文楽の桐竹門造氏による「乙女文楽」は文楽の人形をそのまま一人で使えるよう工夫されたもので、人形の胴串



説明する西川古柳氏
(撮影佐藤公夫氏)



乙女文楽「戻り橋」
(撮影佐藤ゆり江氏)

を使い手の胴につけた金具で支え、人形の首は日本髪の根元につけた耳紐で動かす。若い女性の袴姿の華かな舞台、一人使いの軽妙閑達さは、娘義太夫の隆盛、素人義太夫の流行もあって、当時、大層もてはやされたそうだ。師匠も文楽の人で、智恵子さんも若い頃、門造師匠には勿論、名人吉田文五郎さんとともに同じ師匠に厳しく仕込まれ、文楽の太夫人や三味線の方と巡業された事もあり、今「乙女文楽」が名実ともに立派に残っているのはこの方の功績である。正しくは吉田光子さんは「娘文楽」の系統で、使い方も胴串を腕にかけた金具で支える方式である。

桐竹智恵子さんは、門造氏から引き継がれた父宗政太郎さんと「乙女文楽」の一一座を率いてこられたので、衣装、大・小道具から床山まで、人形も立役、女形、老役なんでも、鳴り物にいたるまで、昔からの文楽をよくご存じの貴重な方だ。けれども、義太夫を語る人も聞く人も少なくなる時勢で、昭和二十六年、後援者であった国森鳴門氏のお世話で茅

ヶ崎市に落ち着かれ、上演や、地元の茅ヶ崎高校、平塚高浜高校の「乙女文楽」部を指導してこられた。その教え子も優に百人を越えている。

その後、お父さんもなくなられ、一座の人たちもなくなつたり結婚してやめられたりしてたくさんあつた人形、演具類も平塚市に譲られて、今は平塚市の博物館に保存され、市役所の職員の方たちがその人形を使って智恵子師から三人使いの文楽を習い、市の文化祭などで上演されている。高浜高校もこの人形を使っている。

タ崎市に落ち着かれ、上演や、地元の茅ヶ崎高校、平塚高浜高校の「乙女文楽」部を指導してこられた。その教え子も優に百人を越えている。

その後、お父さんもなくなられ、一座の人たちもなくなったり結婚してやめられたりし、たくさんあつた人形、道具類も平塚市に譲られて、今は平塚市の博物館に保存され、市役所の職員の方たちがその人形を使って智恵子師から三人使いの文楽を習い、市の文化祭などで上演されている。高浜高校もこの人形を使っている。

神奈川県には相模三座といわれる江戸時代からの人形芝居の座が残っているが、智恵子師の教えられるのは正当な文楽の格調高い芸で、神奈川の新しい郷土芸能ともいえるものだと思う。

先頃、この三つのグループのO.B.(OG)により「湘南座」が結成された。それぞれ大学、職場、家庭に入っても「乙女文楽」を続けたい、また義太夫も三味線も習いたいといふ方達が集まっている。この時は竹本素八師匠、鶴沢駒登久師匠にも一緒に行っていたとき縦勢十三人の旅だった。また、その技法は現代人形劇にも取り入れて、いくつかの新しい作品も出来た。

「乙女文楽」は、使い手の全身をこめて人形を使う。それは文楽から出でてはいるが、また文楽とは異ったダイナミックで繊細な表現方法だと思う。

昔、この一座の「壺坂」「安達の袖萩祭文」を見た。その時の感動を忘れることが出来ない。その後、私も「壺坂」の沢市を教えていたとき、何度か舞台を務めたが、あの沢市の盲目で座頭でだんだん思い詰めてゆく様子、と智恵子師匠のまめまめしく健気なお里とぴたり息の合った舞台、生身を感じさせてしかも強烈に人形である、ああいう風に使いたいと思ひ憧れながら、いつか果たせるだろうか。その時、沢市を演じられた智恵子師匠の義姉にあたる林輝美子さんも今はなく、師匠も良い相手役をなくしてしまわれた。それに若い

「番叟」「道行初音旅」「壺坂靈驗記」を披露した。この時は竹本素八師匠、鶴沢駒登久師匠にも一緒に行っていたとき、総勢十三人の旅だった。また、その技法は現代人形劇にも取り入れて、いくつかの新しい作品も出来た。

「乙女文楽」は、使い手の全身をこめて人形を使う。それは文楽から出でてはいるが、また文楽とは異ったダイナミックで繊細な表現方法だと思う。

昔、この一座の「壺坂」「安達の袖萩祭文」を見た。その時の感動を忘れることが出来ない。その後、私も「壺坂」の沢市を教えていたとき、何度も舞台を務めたが、あの沢市の盲目で座頭でだんだん思い詰めてゆく様子、と智恵子師匠のまめまめしく健気なお里とぴったり息の合った舞台、生身を感じさせてしかも強烈に人形である、ああいう風に使いたいと思い憧れながら、いつか果たせるだろうか。その時、沢市を演じられた智恵子師匠の義姉にあたる林輝美子さんも今はなく、師匠も良い相手役をなくしてしまわれた。それに若い頃から重い人形を胴金で支えてきた後遺症で腰を痛められている。今のうちに出来るだけ師匠の芸を吸収しておかなければならない。

しかし、私はまだ心に残る素晴らしい舞台を見せて幸せだ。これから的人にそんな舞台を見せることが出来るか？ これが後継者の課題だとと思う。

さて私達人形劇団ひとみ座は神奈川県にある現代人形劇の専門劇団だが、昭和四十一年から智恵子師を講師に迎え、乙女文楽を習ってきた。その成果として、本牧亭以来、義太夫の会にも何回か出演させていただいたし、昭和四十八年には「戻り橋」を持ってフランクの国際人形劇祭に参加、昭和五十年には招かれてスペイン、バルセロナの人形劇祭で「三

* 2月21日、女流義太夫公演にゲスト出演
「傾城阿波の鳴門」 巡礼歌の段

(1991.1.1)



緊張気味の(?)土佐廣師

土佐廣師の手形が

浅草スターの広場に

このお正月で満九十三歳の春を迎えた、人間国宝・竹本土佐廣師の手形が浅草スターの広場に加わることになりました。昨年12月3日、自宅で型をとり、本年3月16日、浅草公会堂にて顕彰式と除幕式が行なわれることになっています。

(写真は手形をとっているところ)

土佐廣師は、昨年11月11日、東京証券会館ホールで開かれた「第二回竹本土佐廣となごむ会」で野崎村の久作を語られました。土佐廣師の近況は、健康管理に細心の注意を払っておられる春日とよ晴妙師のごあいさつ(なごむ会プログラム掲載)に語り尽されていました。一部抜粋させて頂きました。

母、土佐廣師(平成元年)末体調を悪く致し大変心配の連日でございましたが、東邦大学脳外科溝上徹先生にお助け頂き只今元気

を取り戻しましてございます。義太夫八十年間芸一筋に生きて参りました。病中も義太夫協

会の舞台、お弟子さん方のお稽古ばかり気に致し其の姿を日夜見て居ります私はもう一度舞台で皆様にお目に掛からして頂き度く念願致して参りました。(略)緊張致しますと、血圧が大変上がりますので無事勤めさせて頂ける様祈る気持ちでいっぱいです。

(以下略)

どうぞ本年もお元気で、後進の指導をよろしくお願いいたします。

弾き語り「女義太夫一代」

昨年11月20日、国立演芸場「女流義太夫演奏会」にゲストとしてお招きした竹本素京師と葛西聖司NHKチーフアナウンサーの対談から一部抜粋してお届けいたします。

「弾き語り 女義太夫一代」(竹本素京著・草思社刊)には載っていないお話を中心に編集部でまとめました。

葛西「イヤー素晴らしい演奏でしたね。一時間少しまわる長張場を……76才ですよ。只今「合邦」を語られた素京さんです。(拍手)時を忘れて聴いておりましたけれど、素京「イヤーお恥ずかしい、年寄りが恥をかいても仕方ないと思うんですけど。葛一最初の師匠、おばさんである花沢梅光さんに入門なさったのが、何と……素一三才!……よくぶたれました。

葛一どういうことでぶたれるんですか?

素一子供だから本が読めないでしょ。ですか

ら師匠が大きな口あく時には、その通り真似する訳ですよね。三つや四つで恋だの愛だのネ、解りやしませんよ。何でも言われたとおりやるから、情も何もありやしませんよ。で

「お前は全然!」って怒られる。

葛一おばさんとしては、もう大人扱いなんですね。

素一エエ、どうしても何とか一人前にしようとしますから張り扇でピシピシぶたれました。

顔にアトがつきますよネ、それからオデコと。

オデコが広うござんすからネエ(笑)、よくぶたれました。

葛一そういう基礎がおばさんの梅光さん、そして二番目の師匠が竹本素昇さんですね。

素一その頃はいくらかこっちも分ってきましたからね、そうそうはぶたれませんけど。

雷助さんの方はぶつんです。怖い師匠で顔を見ただけでブルッとくるようなな……

葛一三番目の師匠が豊澤雷助さん、男の師匠ですね。「合邦」は素昇さんに教わったそうです。

雷助さんが、さき程の「合邦」は褒めた……素一ハイ、「よう出した」って言つて貰いましたね。私が真打披露してから、私が行く所でね。私が真打披露してから、私が行く所は、マア年をとつて危ないからって言うのに杖ついて来るんです。初めから座つて聴いてるんです。愛情があるでしょ、それこそ。

花沢「来ましてね、皆さんエライすんまへん、まだ芸の出来ん子オやからよろしうお願

いします」って、皆さんに挨拶なさる。うれしいんですよ、それが。私、ついこの間も雷助師匠に手合わせました、ソ連に行つて参りました時に……

葛一操り人形・結城座のおかみさんでいらっしゃるから、その公演でいらしたのですね。

素一モスクワの国立音楽大学で義太夫をやつてみてくれって。ところが、日本人でさえ解らないのに、そんな目色毛色変わっている（笑）人に解るかなア、どうしようと思って。そしたら、ソ連の人が向こうの言葉で筋書きをお話したんです。「壺坂」をやりました。

私ネエ太つて気が大きそうですが、やっぱり小っさいところもあるんですね。お客様の顔見るともう出来ませんから、もうここばかり見て。そしたら、鼻をする人がいるんですよ、チョット見たんです、そしたら向こうの方が二・三人泣いてんですよ。

葛一フーム。

素一目の悪い夫を助けて、最後に目があいた、どんなにその奥さんはうれしかったろうと思つたら涙がでたっていうんですよ。どういう所で解りましたって聞いたら「声が違う」つて。前半は泣いてましたよね、観音様が出て

からはうれしそうな声出してましたよね、その声で解った、って。「おまはんの芸は心がないで、心のない芸はやつたらアカン」ってよく言つてました。その頃は、どこが心がないのかと思いましたけど、段々年をとつてくるにつれ、その心ってのは何かってことが解つてくるようになりましてね。その時に

ハッ、日本人でも外国の方でも心はひとつなんだと、それをお教え下さった雷助師匠は有難いと思って、私、本当に師匠に手を合わせました。ですから私は師匠運がよかつたんです。

葛一少女時代の苦闘があつたからこそ今がある訳ですが、それ程打ち込んだものをやめさせてしまつたのは、結婚……

素一そうです。でも、やめなかつたら今までなかつたでしょうね。結婚したとき、三味線や見台は持つて行つたんですけど、妬に怒られると「アーハーこんなことしてなら舞台に出たほうがいいや」何べん思つたか分からぬ。三味線があつたら私は妬にはついていけない、家庭の人間になろうと、思い切つて一切合財売っちゃいました。それを捨てたからマアお蔭さんで五十七年も八年も一緒にいられたんだと思いますね。

葛一婚約中に新派から入つた仕事を断わつた、サア、何といつて断わつたんですか？

素一花柳章太郎の「二筋道」がでてましてねエ。「アタシ……一寸ダメなんです、一寸出られないんです、ゴメンなさい」って謝りましてね。

葛一本当は「恋愛中に付きやめます」つておつしゃつたんですってね。三つ四つで恋という字がわからなかつた少女が、恋という字を知り染めて義太夫を離れた。私は、結城一座で引き続きやつてたと思っていたんですが。やれつて言つて、じややってみようかなと

やり始めたんです。主人・結城雪斎は、初めて私の義太夫を聞いたんですって。

葛一でも、五十年間もブランクがあつて、どうしてこんな風に語れるんでしょ？

素一サア一やつぱり子供の耳とかそういうの

は違うんじゃないでしょうか。よく師匠から

「芸といふものは色気がついてきたアカソ」と言われました。ぶたれたりするのに、色気がついた時にやられたら恥ずかしいでしょ。

本を見ますとここんところはぶたれた、ここは怒られたとすぐ思い出すんですね。「お前はどうして頭をこうやる！」「髪を壊したくな

いから」とも言えませんし、「ハイ」って。葛一なる程ね、体で思い出す訳ですね。全く白紙のうちに覚えたもの、忘れないながらも再現することは無く結城座のおかみさんとして苦労を積まれたわけですが。

「舅が亡くなつた時、素京さんがたつた一人で葬儀を取り仕切つた話から」

素一「合邦」の念仏は難しいんです。私にはよく出来ませんけれども、雷助師匠が「合邦が最後に念仏を唱えるところはもう夢中なんだ。自分が刺した娘が死ぬんだから、ちゃんと

と『南無阿弥陀仏』と言えるわけがない」と言されました。本当にそう思います。

葛一人生重ねていくうちに、又、その言葉が意味を持ちてきたということになりますねエ。

素一エエ、私はマアお蔭さんでこうやってやらせて頂いて幸せだと思います。

葛一これからも元気でお語り下さい。本日はどうも有難うございました。（拍手）

女流義太夫共和会あれこれ(三)

事務局長 竹本綾太夫

前二回、「女流義太夫あれこれ」と題して、昭和三十五年三月から同四十五年六月迄の満十年に及ぶ、毎月四日間興行という女義共和會の善戦そして苦闘の一端を述べさせていただいたが、この駄文の本来の目的は、本牧亭

十六年からの記録を明らかにしたい、ひいては昭和二十年の焼跡からの女義、もう一寸行って昭和初期から戦災迄、そう「昭和の女義」について、少し明らかにしたいということにあつたのである。

其和会以後の詰組は、ほん完全といつて、
よいが、それ以前となるとトタンに闇の中と
なる。唯一の証しとなるプログラムがほとん
ど無いのである。昭和二十六年の竹本素女さ
んに依る本牧亭旗上げについても、確かな月
・日時がはっきりせず、初日に素女さんが出
演したとか、いや出演しなかったとか、当初
は五日間興行であったという人と、始めから
四日間であったという人もいて、誠に曖昧模
糊としている。

御定連の吉田和一郎さんが力を入れ始めた頃（と思われる）は幾らか残っているのだが、年号・入場料などがはつきりしない。

ということはない筈である。因みに入場料は百円位だった。ともかく、素女さん時代のプログラムは皆無で、一度お目にかかりたいと念願している。綾之助さん時代のプログラムは、初期の葉書型、三十年代に入ってからの

書版二：折り裏に別語類の記合があるの、御定連の吉田和一郎さんが力を入れ始めた頃（と思われる）は幾らか残っているのだが、年号・入場料などがはっきりしない。

始めの頃は、いつ行っても客は薄かつたが、三十年頃からは、今も多大なるお力添えをいただいている高野雄輝さん・故入舟堂（都築一郎）さん・故吉田さん・故中井喜一郎さんいわゆる御定連様方の後押しなどもあって、大分客の入りが良くなり軌道にのつたといえよう。

本牧亭ではこの四日間の外に、様々の特演

本牧亭ではこの四日間の外に、様々の特演会が御定連様方の後援で行われている。私が聴きに行つただけの、或る一年間のプログラムを開いてみると、昭和三十二年十一月五日「第三回越道・駒竜・素竜三人会」・三十三

年五月五日「東都女義花形名人合同竹本素童会」・同年五月九日「東都女義竹本会（重之助の会）」・同年十月九日「重朝改メ竹本重子披露会」・同年十月二十七日「竹本綾枝（現綾之助）の会」・同年十二月五日「第一回東

都女義有名会」等々、出演者は二代目竹本綾之助・土佐廣・小津賀・重之助に越道・駒竜・素竜・綾枝他、三味線は豊澤猿玉・鶴澤紋教・豊澤猿幸・鶴澤三生・鶴澤駒登久他という組合せ、プログラムも立派なもの（皆高野さんの印刷に依る）だったので、当然、客は大入りであった。これは一日から四日迄の定期席にも相乗作用を及ぼした。この特演会は、共和会発足以後も盛んに行われ、昭和四十年頃迄続いたのである。

その中で特筆ものは、三十七年二月五日・同年七月五日・三十八年一月三十一日と、三回行われた「有名会特別公演」である。高野さんの肝煎りに依る、文楽三和会の吉田辰五郎一派の人形入りだったから大変、準備もお金も記録的だったが、客もメチャメチャに入った。特に三回目の時は、三百人というところで階段の上り口迄詰ってしまった。そこで札止めとし、後から来た客約百五十人位は、平身低頭お引取りを願う始末。客席も真中から後を見ると、無理に押込んで納めたが、根太がギシギシしているので、いつ抜けるかと気もそぞろであった。

前に戻るが、昭和三十三年の十二月興行では、今では恒例になっている「忠臣蔵合同公演」が初めて行われている。

二代目綾之助さん「十二月は大変なんだから手伝ってよ」私「ハイ、承知しました」と簡単な会話が交されたが、以後ずっと今日迄簡単ではない状態が続いている。

第6回豊澤仙広賞は 鶴澤駒登久に

豊澤仙広師（もと義太夫協会副会长・義太夫節保存会会长）の功績を記念して昭和61年創設されました「豊澤仙広賞」、平成2年度受賞者は鶴澤駒登久に決定いたしました。

永年、女流義太夫公演に出演し続けたのみならず、特に昨年一年間の国立演芸場女流義太夫公演で最も活躍した三味線奏者として、このほどの受賞が決ましたのです。3月21日国立演芸場「豊澤仙広師追善会」にて披露の予定です。

尚、昨11月26日の理事会にて、仙広賞規定を一部変更、左のとおりに決定いたしました。

副賞は、仙広師の最良の理解者である河野国声氏より毎年頂戴いたしております。

▲豊澤仙広賞規定▽

- 一、社団法人義太夫協会は、豊澤仙広師が本協会の設立と発展に多大の貢献をされたことを記念して「豊澤仙広賞」を設ける。
- 一、賞は、賞状および副賞金拾万円とする。
- 一、受賞者は、本協会の会員で、本協会に頗著な功労のあった人を、原則として一名、選考委員会が選ぶ。
- 一、選考委員会は、会長、副会长、常務理事で構成される。

以上

豊澤仙広師追善会

本牧亭の終焉に合わせたかのよう、昨年1月8日、息を引き取られた義太夫協会もと副会长・前義太夫節保存会会长

豊澤仙広師の追善会を3月21日、国立演芸場でとりおこないます。（後日詳報）また、編集部では、今日の国立女流公演の礎を作られた仙広師追悼の会報を発行すべく、準備を始めております。

一周忌の法要が、昨年12月24日、芝の天陽院にて、お身内だけで営まれました。義太夫協会からは、朝重・駒之助両副会长・越道常務理事・綾太夫事務局長がお参りさせて戴きました。

義太夫教室OB演奏会

義太夫教室は、平成2年度が第43期と歴史を重ねています。第1期生の大先輩から、現在受講中の43期生まで、OBが一堂に会するこのOB演奏会は、いつも独特の熱気に包まれ義太夫節の面白さを再認識させてくれます。お誘い合せ御来場下さい。（入場無料）

◇平成3年2月23日(土) 12時~8時

◇東京都勤労福祉会館ホール
中央区新富1-13-14 地下鉄日比谷線八丁堀下車 (三五五二) 九一三一

* 出演希望のOBは大至急お申込み下さい。

芸団協助成 新人奨励賞

竹本泉太夫・鶴澤泰二郎に

平成2年度芸団協助成による新人奨励賞は、竹本（歌舞伎義太夫）の若手二人に授与されることになりました。竹本泉太夫・鶴澤泰二郎ともに、『竹本研修』の第四期生で、歌舞伎を支える大きな戦力になりつつあります。

(後日詳報)

邦楽演奏会

'91都民芸術フェスティバル

* 平成3年3月1日(金)

* 昼の部 12時半 夜の部 4時半

* 国立小劇場(三二六五) 七四一

* 東京都助成による特別料金 1,500円

邦楽連合会(義太夫・清元・古曲・新内・常磐津・長唄・三曲)主催の年一回の邦楽演奏会。第21回の今年は、国立小劇場に会場を移し、初の試みとしてウイークデー(金曜日)に開催いたします。

義太夫は、『傾城恋飛脚』新口村の段"朝重・綾一・越若・駒登久、『絵本太功記』尼ヶ崎の段"越孝・駒之助・駒龍・土佐恵・土佐子・素八・寛八の予定です。

* お問合せ・お申込みは事務局まで。

協会の活動

き

'90年7月より
'91年1月まで

7月17日	公演部会	於事務局	9月3日	義太夫教室第43期中級（語りコース・三味線コース）開講	ス・三味線コース	於歌舞場スペース・アルファ	10月15日	定例理事会	於銀座区民館
7月21日	女流義太夫演奏会 創作講談と義太夫による特集『寺子屋』企画・構成－館野善一、ゲスト－講談協会常任理事 宝井馬琴師	於国立演芸場	3日	公演部会	於事務局	9月4日	義太夫節保存会平成2年度助成金交付決定通知	於歌舞場スペース・アルファ	ス・三味線コース
21日	正会員新入オーディション	於国立演芸場	9月6日	芸団協助成金（新人後継者の育成・技能向上事業）交付決定通知	於歌舞場スペース・アルファ	9月7日	義太夫稽古本大整理	於事務局	10月21日
7月30日	義太夫教室第43期初級入門コース閉講式 46名が修了した。	於国立演芸場	9月12日	平成2年度芸術文化振興基金助成金交付申請書提出	於歌舞場スペース・アルファ	9月17日	公演部・国立演芸場打ち合わせ	於国立演芸場	10月26日
8月16日	公演部・国立演芸場打ち合わせ	於国立演芸場	9月21日	教師のための義太夫講習会「初代竹本義太夫の命日に因む」企画・構成－吉川英史 聲説と淨瑠璃による新作「ある日の義太夫」初演作－遠山門外 曲－鶴澤悠美	於歌舞場スペース・アルファ	11月1日	五行本（稽古本）大整理終了	於歌舞場スペース・アルファ	11月12日
8月20日	女流義太夫演奏会 ゲスト－乙女文楽 人形劇団ひとみ座	於国立演芸場	11月16日	公演部・国立演芸場打ち合わせ	於銀座区民館	11月20日	日本放送協会平成2年度助成金交付申請書提出	於歌舞場スペース・アルファ	11月20日
8月21日	芸団協助成 女流若手盛夏勉強会似顔絵入りのチラシを作った。	於国立演芸場	20日	女流義太夫演奏会「特別企画 弹き語り女義太夫一代」ゲストに竹本素京師・対談の聞き手にNHK書提出	於歌舞場スペース・アルファ	11月21日	教師のための義太夫講習会「義太夫と歌舞伎」講演「仮名手本忠臣蔵の成り立ち」菊池明 忠臣蔵シリーズ第二弾	於国立演芸場	10月8～10日
8月21日	常務理事会	於文明堂	21日	第11期竹本研修適正審査	於国立劇場	8月28日	NHK厚生文化事業団創立30周年記念感謝のつどい 朝重副会長出席	於NHK放送センター	都教育庁に提出
8月28日	演劇人協会 長老顕彰（13頁参照）	於国立劇場	9月25日	平成2年度民間芸術等振興費補助金（青少年等芸術普及）交付申請書提出	於回向院	9月25日	小屋研修（豊竹呂大夫師指導）	於国立劇場稽古場	10月15日
8月31日	NHK厚生文化事業団創立30周年記念感謝のつどい 朝重副会長出席	於NHK放送センター	11月21日	教諭のための義太夫講習会「義太夫と歌舞伎」講演「仮名手本忠臣蔵の成り立ち」菊池明 忠臣蔵シリーズ第二弾	於国立演芸場	11月21日	平成2年度事業報告・決算報告 平成2年度事業計画・予算 東京	於銀座区民館	10月8～10日
9月29日	祖先祭	於回向院							

新入会員御紹介（五十音順・敬称略）

日記

日記

本年もどうかよろしくお願ひ申し上げます。

編集後記

おめでとうございます。
本号の隠しテーマ（？）にお気付きでしょうか。答えは後継者問題です。

* 昨年納めの女流義太夫演奏会に、竹本駒国
竹本駒輝・鶴澤寿々方（いずれも駒之助門
下）が揃って初舞台を勤めました。貴重な
後継者です、末永く御後援賜りますようにな
るに至りました。自薦・他薦を問いません。
お心当たりの方は情報をお寄せ下さい。

* 朗報！三人の新人が初舞台！

* 5月19日から、田坂州代サン（24才）・10
月17日から、荒木田美香サン（21才）が、
事務局に勤務中。あのゴタゴタの事務所が
最近小さっぱりしたと、専らの評判です。
電話応対など、どうかよろしく。

* 五行本（義太夫稽古本）・三味線 若干お
領ができるものがあります。事務局まで。
新春懇親会は、都合により本年は見送りと
いたしました。悪しからず御了承下さい。
尚、正会員・推薦会員・協会役員は1月20
日、初の女流義太夫演奏会当日、4～5時
初顔合わせの御挨拶交換をいたします。

於 国立劇場第一演芸研修室

お知らせいろいろ